

大正ロマンと九谷焼

大正三年、劇団芸術座公演「復活」の劇中歌に「カチュウシヤ」の歌を歌った。

カチュウシヤかわいや わかれのつらさ せめて淡雪 融けぬ間と
神に願いを かけましょうか。

カチュウシヤかわいや わかれのつらさ 今宵一夜に 降る雪の
明日は野山に 路かくせ

行こうか戻ろうか オウロラの下を 露西亜は 北国はてしらず
西は夕焼け 東は夜明け 鐘が鳴ります 中空に

等の「さすらいの歌」が、同じく芸術座の公演「生ける屍」の劇中歌が
イカラな人々に歌われたという。

氷を飲むコップは、襟に薄い色がついているのは、大正スタイルである。
電灯の笠の大正スタイルの薄紅色が懐かしい。

九谷焼の「赤絵の酒器」は、ロマンの匂いがする。
角樽は、お祝い事に欠かされない、赤い大正の色をした樽であった。

